

2020年度 事業報告書

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主催・共催・後援事業の中止や、池田・横浜の両発明記念館の臨時休館など各事業において活動が制限されましたが、財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 「第36回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じて友情を育んでもらうことを目的に、1985年から小学生陸上競技交流大会を後援してきましたが、4月に新型コロナウイルス感染防止の観点により、全国大会(9月開催予定)の中止を決定しました。それに伴い、例年6月、7月に開催される地方大会も中止または延期となりました。

しかしながら、公益財団法人日本陸上競技連盟をはじめ子どもたちの活動の場を創出したいという思いから、各地の陸上競技協会が地域の感染状況に応じて、日本陸上競技連盟が定める新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、32都府県において地方大会が開催され、15,000名の子どもたちが参加しました。当財団は、地方大会開催補助金やメダル贈呈などを支援しました。

感染防止対策を徹底した上で開催に尽力した大会関係者から、「子どもたちが本当に嬉しそうで、競技を終えたあとの笑顔が忘れられない」という声をいただき、子どもたちにとって目標となる大会として定着した本大会の意義と、このコロナ禍にあっても活動の場を創出することの重要性を再認識しました。

【地方大会】 2020年7月～11月、各地域の感染状況を考慮し、32都府県において開催

【参加者数】 15,000人

【事業費】 43,797,749円

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には、優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、各都道府県から選出された指導者 47 名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を 2015 年 9 月にスタートしました。世界のトップ選手が集うトレーニング環境に飛び込み、現地のコーチに指導を乞い、切磋琢磨しながら、トップアスリートとして求められる資質を育成するもので、国際大会におけるメダリスト誕生をサポートするものです。これまで、延べ 48 名の若手アスリートを支援しました。

2020 年度は、コロナ禍により海外での活動が大きく制限されたため、参加者なしとなりました。

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2020 年度も引き続き、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。コロナ禍により国内合宿の開催縮小や海外遠征が中止になりましたが、オンラインによるトレーニングサポートや栄養調査・アドバイスなどを実施したほか、コーチによる地域大会の視察や、夏以降に開催された国内合宿などを支援しました。

【参加者数】	・ トップジュニアキャンプ	選手・指導者	70 名 (年 2 回開催)
	・ 強化合宿	選手・指導者	40 名 (年 5 回実施)

【事業費】 12,414,625 円

■公 2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「協調性」や「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010 年 5 月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成、指導者の養成を行い、アウトドア活動の普及を図りました。

1. 「第 19 回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、コロナ禍で活動に制限がある難しい状況の中で 124 件の応募があり、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した 50 団体を選考し、実施支援金として各 10 万円を助成しました。更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し表彰しました。助成した 50 団体の活動には、延べ 7,000 人の子どもたちが参加しました。

コロナ禍により、1月開催予定の表彰式および講演会は中止しましたが、文部科学大臣賞、安藤百福賞など受賞した団体へのメッセージ動画を制作し、贈呈するとともに、ホームページ「自然体験.com」において広く公開しました。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

[学校部門]

◆ 文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：甲賀市立油日小学校（滋賀県）

企画名：「自分を大切に・人を大切に・物を大切に・自然を大切に」を合言葉に
みんなで取り組むエコ・スクール活動

◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：南アルプス市立芦安小学校（山梨県）

企画名：「やまぶき祭り」っていうのに、ヤマブキがないのは、どうして？
～食害と動物との共存を考える～

[一般部門]

◆ 安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：NPO法人 暮らし・つながる森里川海（神奈川県）

企画名：自然探検団が行く

◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：福井県山岳連盟（福井県）

企画名：登山技術で災害をのりこえよう！～ふくい防災チャレンジ・キャンプ～

[学校部門・一般部門共通]

◆ 推奨モデル特別賞（副賞：30万円）

プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈しました。

① 団体名：伊那市立長谷中学校（長野県）

企画名：鎌を持って！中学生の開墾キャンプ～ふるさとの自慢の畑と味を復活させよう～

② 団体名：社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム（東京都）

企画名：小中学生女子キャンプ ～PRIDEを白馬岳縦走に賭けて～

◆ トム・ソーヤー奨励賞（副賞：各20万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

① 団体名：尾鷲市立矢浜小学校（三重県）

企画名：僕らのあそび場づくり ～川育・雨育・おわせ行く～

② 団体名：一般社団法人 紀の国森社中（和歌山県）

企画名：限界集落に子どもたちの声！ 住民とコラボ～自然も人も甦る「魔法の森」プロジェクト

◆ 努力賞（副賞：各10万円）

① 団体名：大津市立葛川中学校（滋賀県）

企画名：自然を活用したアントレプレナーシップの育成：KCLプロジェクト始動！！

- ② 団体名：姫路市立白鷺小中学校（兵庫県）
企画名：世界文化遺産 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業
- ③ 団体名：水俣市立久木野小学校（熊本県）
企画名：先輩に教わり、育てて、おいしくいただく
故郷には自然の恵みがいっぱい！おいでよ、久木野へ！
- ④ 団体名：里山わらび（笑靨）（新潟県）
企画名：たのしい里山生活 ～きみも里山で暮らしたくなる?!～
- ⑤ 団体名：花背山の家（京都府）
企画名：わんぱくチャレンジキャンプ ～感染予防対策キャンプ～
- ⑥ 団体名：自然と文化の森協会 猪名川キッズクラブ（兵庫県）
企画名：尼崎の宝物。田能のヒメボタル ～ヒメボタルが乱舞する風景を取り戻そう～

【事業費】 22,809,961 円

2. 安藤百福センター事業

本事業の拠点である安藤百福センターは、コロナ禍の影響により、春から夏にかけての主催、共催事業を中止しました。感染拡大防止のため、多くの方が外出を控え、自然とふれあう機会が著しく減少することとなりました。自然の中で歩くことは、青少年教育の有効なツールのひとつとして考えられ、体力だけでなく、好奇心の発芽が大いに期待できると同時に、自然を守る大切さを学びます。夏以降は、感染防止対策を講じた上で、自然を楽しむ講座や体験を再開するとともに、11月にはNPO法人日本ロングトレイル協会と連携して、動画「アフターコロナの歩き方～ロングトレイルを歩こう～」を制作し、自然の中を歩く文化の醸成とロングトレイルの振興に努めました。

(1) 自然体験活動振興事業

① 指導者養成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会が主催する危急時対応技術講習会など安全管理に関する研修会をはじめ、全国から20を超えるアウトドア活動団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施しました。

② 自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも「アート」をきっかけに豊かな自然に触れ合うことを目的とした「小諸ツリーハウスプロジェクト」を推進しています。著名なデザイナーや建築家がデザインした既存の枠にとらわれない自由な発想で創り出されたツリーハウスを7棟展示していますが、コロナ禍により、地元の旬の味覚を味わえる飲食ブース、野外音楽ライブなど「アート・アウトドア・食」をテーマとしたイベント（秋開催予定）は中止し、ツリーハウスの見学は通年中止としました。

夏以降、自然を楽しむ講座や体験、安藤百福センターの野外研修フィールドである浅間・八ヶ岳パノラマトレイルにおいてトレッキング講座などを主催しました。

- ・大人のトレイル歩き旅講座（年5回開催）
- ・みんなでダイヤモンド浅間を見に行こう（年2回開催）
- ・みんなでパール浅間を見に行こう（年1回開催）
- ・子どもクライミング教室（年3回開催）
- ・【オンライン講座】おうちで学ぶアウトドア講座（初開催）
- ・【オンライン講座】トレイル歩きのカラダづくり講座（初開催）

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩く」ことが基本となります。当財団は、NPO 法人日本ロングトレイル協会と連携し、ロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、「歩く文化」の醸成を図り、子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

- ・日本列島を貫く「JAPAN TRAIL」制作に向けた支援
- ・ロングトレイルの情報収集と発信、広報活動支援、全国の運営団体との交流
- ・ロングトレイルシンポジウム開催中止に替わる動画「アフターコロナの歩き方ーロングトレイルを歩こうー」を制作、公開

【事業費】 104,217,724 円

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを掲載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。表彰式中止に伴い、文部科学大臣賞、安藤百福賞など受賞した団体にあてたメッセージ動画も本ホームページにおいて公開しました。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,490,562 円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第25回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世(食を創り世のためにつくす)」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。当財団では、「食創会」を主宰し、毎年「安藤百福賞」の表彰を行っています。

「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、食科学の振興ならびに新しい食品の開発に貢献する研究者、開発者およびベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学などに所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。2016年度より、小泉純一郎 元内閣総理大臣を食創会会長に迎え、食文化の向上に貢献する事業の更なる活性化を図っています。

コロナ禍により、3月開催予定の表彰式および記念講演会は中止しました。

【後援】 文部科学省、農林水産省

【表彰者】

- 大賞（副賞：1,000万円）

松澤 佑次 氏（一般財団法人住友病院 名誉院長・最高顧問）

「生活習慣病の成因における内臓脂肪の意義解明とアディポネクチンの発見」

● 優秀賞（副賞：各 200 万円）

- ・木村 郁夫 氏（京都大学大学院 生命科学研究科 教授、東京農工大学大学院 農学研究院 特任教授）

「食・栄養シグナルと脂肪酸受容体の研究」

- ・佐々木 敏 氏（東京大学大学院 医学系研究科 教授）

「科学的根拠に基づく栄養学の提唱と普及ならびにわが国の栄養疫学研究と食育などへの貢献」

- ・深見 健 氏（サンエイ糖化株式会社 素材開発部 部長）

「～骨と腸の健康をおいしくサポート～ 難消化性酸性オリゴ糖（マルトビオン酸）の開発」

● 発明発見奨励賞（副賞：各 100 万円）

- ・金子 賢太郎 氏（京都大学大学院 農学研究科 特定助教）

「食品成分による視床下部の食欲調節ホルモン感受性制御機構の発見」

- ・滝沢 潤 氏（一般社団法人長野県農村工業研究所 農業開発研究部 主任研究員）

「干し柿『市田柿』の機械乾燥技術実用化および長期貯蔵技術の開発」

2. 食科学の進展に寄与する学生への「安藤百福 Scholarship」奨学支援事業

日本国内では、経済的理由で就学が困難な学生を支援するため、さまざまな奨学金制度がありますが、大学院生に特化した奨学金制度は十分ではなく、アルバイトなどで学費や生活費を工面している学生が少なくありません。今般のコロナ禍において、この問題は深刻化しています。

大学院は、研究者や高度な専門家を養成することから、日本の将来を担う優秀な人材が、経済的な理由で大学院への進学を断念する、あるいは大学院の休学または退学を余儀なくされると、新たなイノベーションを創出する人材を失うことにもなりかねません。

当財団は、食科学のイノベーションをコロナ禍で停滞させてはならないとの思いから、「安藤百福 Scholarship」奨学支援事業を創設しました。2021 年度より、食科学の進展に寄与する大学院生 100 名に、年額 100 万円の奨学金を給付します。2020 年度は、食科学に関する研究科、履修する学部を有する大学院に募集案内を送付しました。このコロナ禍にあっても、食文化の向上、振興を担う将来の人材の育成を図ります。

【事業費】 41,168,265 円（食文化振興事業）

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「クリエイティブシンキング＝創造的思考」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

両発明記念館においては、2020 年 2 月 29 日から 6 月 30 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館しましたが、公益財団法人日本博物館協会の感染防止ガイドラインに沿って、感染防止対策を講じた上で、入館者数を制限し、一部体験を休止して 7 月 1 日より再オープンしました。

一方、来館者数は、夏の第 2 波、緊急事態宣言が再発出された第 3 波の影響もあり、開館以来、順調に増加していた学校教育、インバウンドによる来館も大きく減少しました。

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）

1999年11月、世界初のインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館した池田記念館では、10月14日、開館から21年間で累計来館者が1,000万人を突破しました。

学校教育による来館は88校、5,720人です。

【施設概要】	所在地：大阪府池田市満寿美町8番25号
	敷地面積：4,477㎡、延床面積：3,423㎡
【開館年月】	1999年11月 累計来館者数 10,049,000人
【来館者数】	2020年度来館者数 90,000人（2019年度対比 10%）
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー 休止
	マイカップヌードルファクトリー 96,000食
【事業費】	155,517,881円

2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜記念館）

横浜記念館は、「クリエイティブシンキング＝創造的思考」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想や創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなどを子どもたちに伝えています。

学校教育の一環での来館は174校、11,000人です。

【施設概要】	所在地：横浜市中区新港2丁目3番4号
	敷地面積：4,000㎡、延床面積：9,883㎡
【開館年月】	2011年9月 累計来館者数 9,160,000人
【来館者数】	2020年度来館者数 180,000人（2019年度対比 18%）
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー 休止
	マイカップヌードルファクトリー 189,000食
	カップヌードルパーク 休止
	ワールド麺ロード 38,000食
【事業費】	439,166,124円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。なお、これまで、池田記念館では物販業務を受託していましたが、業務の見直しに伴い、2018年10月より業務受託を一時休止しています。

【賃貸面積】	① 池田記念館 324㎡（館全体の延床面積に占める割合：約9%）
	② 横浜記念館 115㎡（館全体の延床面積に占める割合：約1%）
【事業費】	11,153,833円

以上